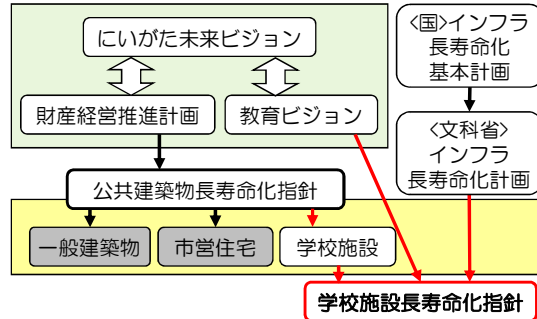


# 新潟市学校施設長寿命化指針（概要）

## 1. 指針の目的と位置づけ

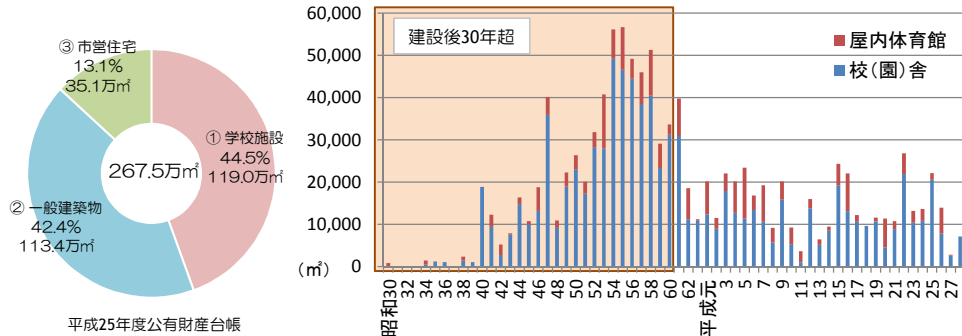
平成27年3月に文部科学省の長寿命化計画が策定され、学校施設の長寿命化に向けた取組みが一層推進されることとなったことを受け、学校施設の既存ストックを適切に保全し、有効に活用していくことを目的に、新潟市公共建築物長寿命化指針を踏まえ、学校施設の長寿命化を推進するための方針を定める。



## 2. 学校施設の現状と課題

### 学校施設の現状

- ▶本市が保有する公共建築物全体の面積の4割以上を占める。
- ▶平成28年4月現在、小学校108校、中学校56校、特別支援学校2校、高等学校2校、幼稚園11園、中等教育学校1校を保有。
- ▶建築後30年以上経過する建物が学校施設全体の面積の5割以上を占め、耐震化は完了しているものの、今後は老朽化対策が喫緊の課題。



### 学校施設の課題

#### 既存ストックの老朽化対策と有効活用

- ▶長寿命化により既存ストックを有効に活用し、併せて複合利用等による市有財産の効率化を図る

#### コスト縮減と財政支出の平準化

- ▶厳しい財政状況において効果的かつ実効性のある事業手法を検討する

#### 多様化する教育環境や環境への対応

- ▶省エネルギー、ユニバーサルデザイン、避難所利用など、社会情勢の変化や多様化するニーズに対応できる施設性能を確保する

## 3. 学校施設の目指すべき姿

- 学びのセーフティネットとしての学校施設  
▷安心安全な教育環境の確保と災害に備えた避難所機能の強化
- 学校教育・生涯学習の基盤となる学校施設  
▷学校内のボランティア室整備など、地域と連携した学校運営の実現
- 学校運営の将来を見据えた持続可能な学校施設  
▷多様化する教育環境やニーズに対応できる施設整備  
▷環境負荷の低減

## 4. 学校施設整備の基本方針

### ○目標使用年数

- ▶目標使用年数80年を基本とする。

### ○改修の実施手法

- ▶建物の物理的な不具合を解消し、耐久性を高めるとともに、建物の機能や性能を現在及び将来に向け求められている水準へ引き上げる改修を行う。
- ▶学校運営への影響を考慮し、夏休み等の長期休業期間での工事実施を原則とする。
- ▶大規模改造事業等の国庫補助事業を活用するなど、積極的に財源確保を図るほか、改修工事に係る全体事業費を平準化し、長寿命化の継続的な推進を図る。

### ○改修の実施時期

- ▶学校運営への影響や有効な予防保全等を考慮し、目標使用年数80年の期間内で、大規模な改修工事の2回実施を目指す。

## 5. 長寿命化に向けた継続的運用方針

### ○長寿命化実施計画の策定

- ▶施設整備の水準を定め、中長期的な実施計画を策定する。

### ○施設情報の管理と活用

- ▶学校施設の状況や過去の改修履歴等のデータを適切に管理し、これを基に学校施設の改修内容や改修時期を総合的に判断するとともに、実施計画の見直しを行う。

### ○推進体制等の整備

- ▶学校や園、教育委員会各課をはじめ、関係部署との連携を一層図り、長寿命化を推進する体制を充実する。